

「21世紀の短期大学をどう拓くか」

——時代に即した新しい発想へ展開——

前 田 和 子

General Remarks

How to create junior college toward 21st century

——Development of new conception to meet facing era——

Kazuko Maeda

今世紀は前世紀以上に大きな波が押し寄せています。現にニューヨークでのテロ事件は世界各国に震撼をもたらし、未だ解決の道が不透明な状況が続いています。日本経済が高度成長した折には、社会の中で即戦力となると、多くの短期大学が設立されました。結果的には高等教育がなされた女性の社会進出への布石になったと言えるでしょう。しかし現在の人口構成の変化と高学歴志向への変遷は、今後のあり方に影響すること大と思われる。

大学審議会答申では「21世紀に向けて望まれる改革」として、(社会状況と大学像)、(大学の個性を目指す改革方策)と様々な内容が提案されています。短期大学は大学に比べ修業年数が短く、専門的知識として受けた教育は即社会に役立ち、広い場で活躍が期待されていました。それ故、現在の急速な変化に対応する改革が短期大学に求められています。

2年前のケルンサミットにおいて、「教育」が主要なテーマとして取り上げられました。我国の高等教育の一旦を担ってきた短期大学においても、その特徴を生かし存続が求められていると思われます。クリントン大統領の一般教書演説では重要課題として「教育問題」が掲げられておりました。注目に値するものとしては、現在アメリカでは半分以上の学校がインターネットに接続され、

これを通じて広い範囲に多くの知識内容を伝達していくとの内容が挙げられています。日本政府も経済対策の次に「教育立国」を挙げていますが、昨年来我国においても教育の場にインターネット導入計画がだされ、助成制度事業が早くも展開されています。短期間に教育しなければならない短期大学こそ、これを活用し情報交換する必要があると考えます。

改革に盛り込まれる事が望まれる内容

1 入試方法

地域密着型でのOA方式を導入し、各校の特色教育を理解してもらう。社会人、留学生の受け入れを行う事により生涯学習のあり方及び国際化の導入を図る。

2 授業の展開の検討

従来の坐学から地域社会との交流出来る授業内容の導入。遠隔地、疾病や障害のある学生にたいしてインターネットの活用による教育情報の提供。

単位互換性及びボランティア活動の開設により広い視野の形成を構築させる。教師に対してはFD方式を導入し、より良い授業内容に変えて行く。

3 将来への道程支援

10代後半の短期大学生にとって「入口、出口」は重要である。家庭での育成と共に、教職員は卒業後の長い人生を歩む学生に基盤となる場の提供をする必要があると思われる。

4 特色を活かす

短期大学においては各校異なった特色があります。この厳しい時代こそ、その特色を明確に発展させる努力が必要です。

5 今後への課題

21世紀に向けて様々な情報を発信し、さらに社会の動向を柔軟に受け止め、改革する姿勢が望まれます。